

# 家庭教育支援研修会 開催報告

～家庭・地域・学校のつながりが、子どもの未来につながる～

## 趣 旨

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化等、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修を実施する。

日 時 令和2年9月18日(金)13:30～16:30(受付13:10～)

参加人数 47名

会 場 滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが) 大ホール(〒523-0891 近江八幡市鷹飼町80-4)

## 対 象

- (1)国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施市町担当者
- (2)家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員等
- (3)市町教育委員会家庭教育担当者、市町教育委員会教育相談担当者、市町児童福祉主管課、子育て支援担当者
- (4)子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクール・ソーシャルワーカー、等

日 程 13:30～13:40 ○開会行事(挨拶、日程説明)

13:40～14:20 ○事例発表  
発表内容:訪問型家庭教育支援について～泉大津市の取組～  
発表者:長谷川 慶泰氏(大阪府泉大津市教育委員会 指導主事)

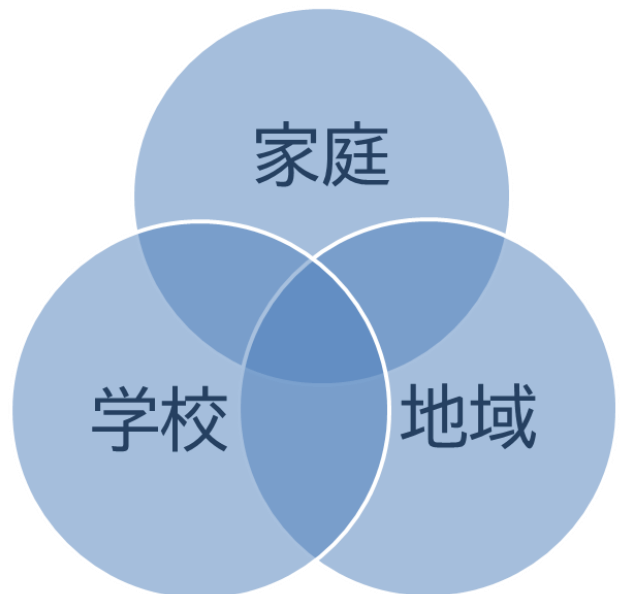
14:20～15:30 ○講 演  
演 題:家庭教育支援に必要なネットワークづくりと家庭教育支援チームの必要性  
講 師:新崎 国広氏(大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授)

○質疑応答

15:30～15:40 ○休憩

15:40～16:30 ○情報交換

16:30～ ○閉会





○開会行事



○「早寝早起き朝ごはん」の推進に係るブース設置



○事例発表

発表内容: 訪問型家庭教育支援について  
～泉大津市の取組～

発表者: 長谷川 慶泰氏  
(大阪府泉大津市教育委員会 指導主事)



○講演

演 題: 家庭教育支援に必要なネットワークづくりと  
家庭教育支援チームの必要性

講 師: 新崎 国広氏  
(大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授)





## ○交流会

参加者の所属や地域を元にグループ分けをし、参加者の各市町で教育部局・福祉部局等で連携が進むように配慮しました。

市町で家庭教育に係る情報共有が円滑になるように情報交換をしました。

活発な情報交換会になりました。

## 参加者の声(受講者アンケートより)

- ・教育と福祉の連携がうまくいかない中、担当者が他部局に足を運んでいくことで、「顔の見えるつながり」ができ、情報の共有や交換がスムーズになっていったとの話を聞き、その通りだと感じた。自身も他部局との連携を進めていきたい。
- ・行政の中でも横のつながりを進める必要を感じた。人(担当者)次第で変わることも感じている。
- ・学校は子どもだけを見ているが、「親や家庭」を見ることも大切。家庭教育支援員はそういう取組ができる人材だと感じた。
- ・複雑な家庭が増えた。コロナの影響で、子どもは葛藤しているのではないかと。家庭教育支援員として、何ができるか、日々考えている。
- ・家庭教育支援員として親と関わる中で子どもが登校できるようになった例がある。ささいな話、世間話が保護者とできる関係ができてきた。家庭教育支援員は教師ではない立場で、子どもに寄り添い、学校にその家庭の背景から示唆を与えることができる。福祉の力で学校の流れが変わる。
- ・学校は忙しく、教頭、教務、各先生方は一日中動き回っておられる。働き方改革の面などからも、家庭教育支援員が果たす役割は大きいと感じるが、活動時間が限られていることもネックだと感じる。学校の様々な課題に家庭教育支援チームが果たす役割は大きい。
- ・分かりやすい内容でした。家庭教育支援として、訪問型を自分の町で取り組む場合の参考になりました。
- ・家庭教育支援＝保護者への支援ということが分かっただけでも収穫であった。
- ・ワクワクしながら研修を受講した。自分の中で悶々としていたことが、ストンと腑に落ちた感じがしました。
- ・普段の業務と違った視点で家庭教育支援を考えることができた。研修での出会い、交流がよかった。
- ・学校と家庭と地域が、それぞれの強みを活かして連携していくことが、子どもたちの健やかな成長につながることを認識できた。具体的な方法も分かってよかった。
- ・訪問型の必要性や仕組みが学べた。事例発表・講話、どちらも聞きやすかった。
- ・家庭教育支援の効果を知ることができた。継続し、広がるようにしていきたい。
- ・自分の仕事の必要性について、改めて気づかされた。仕事に頑張って取り組もうと前向きな気持ちになった。
- ・有意義な内容満載で、さっそく実践したくなるものでした。
- ・今、必要なことだと思っていた時の研修であった為、グッドタイムの研修会でした。
- ・理想が見えてきました。現実にするには、まだまだ大変だと思いますが、元気が出ました。
- ・地域力の大切さを再確認しました。
- ・福祉的な側面の知識も教えていただけ、大変よかった。